

# ZAIDAN NEWS LETTER

MAR/2016  
VOL.26

人を育み 未来へ繋ぐ



## 「犯罪と非行」誌 最終号のお知らせ

皆さまに長らくご愛読いただいた「犯罪と非行」誌は、2016年3月発行の181号で刊行を終了することとし、2016年度から新たな誌名、内容の機関誌を発刊いたします。1969年(昭和44年)の創刊以来、多くの執筆者、愛読者に恵まれ、皆さまの多大なご支援を受け発刊して参りましたが、近年の社会情勢の大きな変化や新しい時代のニーズに対応するために、内容を一新することにいたしました。

新機関誌では、多様な社会問題・時事問題をテーマに特集を組むほか、これらと連動したシンポジウムも適宜開催し、その内容を掲載するとともに、対談や座談会なども織り交ぜながら、魅力的な誌面づくりをめざしてまいります。創刊号の詳細につきましては、日立財団のウェブサイトでご覧いただけます。

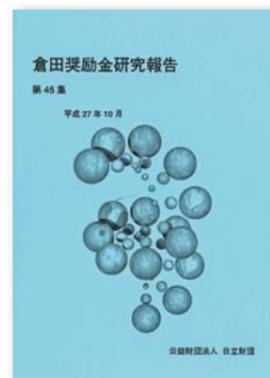
今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 犯罪と非行

No.181  
2016.3

目次	
ご挨拶	田中 幸二 1
「犯罪と非行」誌の編集に際して	富田 正造 3
エッセイ	
「未成年後見人」という仕事—ある少女との10年—	小島 幸保 6
友だちとの分岐点	ミムラ 11
友だちの「笑うもの」	安河内 剛 15
公開シンポジウム「ネット社会と少年非行」	
「基調講演」日本子育て比較	
〜どうやって子どもを大人にするか〜	ダニエル・カール 21
犯罪学から見たネット社会	守山 正 34
ネット社会と子どもの犯罪被害・加害の実態	寒川由美子 46
ネット社会と少年非行の特性	青木 治 58
「ネットに生きる子ども」の危うさ	遠藤 美季 72
特集	
危険ドラッグなどの薬物依存をめぐる諸問題	
危険ドラッグ対策について	佐々木正太 86
警察による危険ドラッグ対策と今後の課題	那須 修 102
危険ドラッグなどの薬物依存者の治療上の課題	合川 勇三 118
最近の薬物乱用問題—基礎研究の視点から危険ドラッグの蔓延を考える—	船田 正彦 138
特定生活指導(薬物非行防止指導)の匿名女子学園での取組について	山口 博美 154
取組に際しての薬物非行防止について	押切 久遠・山下 麻美 166
海外の犯罪学動向	
フランス行刑の最近の動向	白取 祐司 187
各種研究報告	
少年非行の現状と警察の取組	中村 真二 203
新法下における少年鑑別所の運営について	吉田 里日 222
生保法における薬物非行者の処遇及び調査の実態	里見 有功 234
書評	
船川潤著「少年非行 社会はどう処遇しているか」	小林 寿一 (書評) 247
「犯罪と非行」表紙写真について	平野潤太郎 251
あとがき	261
表紙デザイン・写真	平野潤太郎

## 「倉田奨励金研究報告」第45集を発行しました



「倉田奨励金研究報告」は、倉田奨励金の助成を受けた研究の成果をまとめたもので、年1回発行しています。今号は、平成25年度に助成金を受けた研究者を中心に、60名の研究成果を掲載しています。その中から、研究テーマを一部ご紹介します。

不揮発性記憶演算デバイスの実現に向けたダイヤモンド半導体への高効率スピン注入技術の開発 (名古屋大学 植田 研二)

サステナブルな鉄触媒の精密制御による新規合成手法の開発 (東京工業大学 湊 猛志)

購読ご希望の方は財団事務局までお問い合わせください。無償でお送りいたします。

## 「季刊 環境研究」180号を発行しました

【特集：第42回環境賞／森里川海、地域の底力】

今号の特集は、2015年6月に表彰を行った「環境賞」の受賞論文と「森里川海、地域の底力」の二本立てです。

その他、179号からの連載「アジア・ビジネスにおける環境法〜」は、ミャンマーとカンボジアを、環境サイエンスカフェ講演録は「水をめぐる地球環境問題」と「温暖化の過去と未来」を紹介しています。

購読方法は以下の財団ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/works/environment/work01.html>



## 編集後記

27年度後半の日立財団の事業を紹介しましたが、編集の都合で3月18日に行われた「日立スカラーシップ卒業式」を掲載できませんでした。東南アジアからの奨学生の卒業を祝う式典はインドネシアとタイの大使をお招きし奨学生の国の踊りや歌を交えた大変盛大な卒業式となりました。

日立財団はこの1年、合併前のそれぞれの財団の事業をすすめてまいりましたが、40年近く継続してきた5つの財団の事業を見直し現代社会のニーズに合う事業としてスタートいたします。28年度は、気持ちも新たに、人と社会により深く関わる財団をめざしてまいります。皆さまのご支援とご指導をお願いいたします。

## 公益財団法人 日立財団

hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階

財団ウェブサイト [www.hitachi-zaidan.org](http://www.hitachi-zaidan.org)

## タイ・コンケン大学学長ほか理事長を表敬訪問

2月12日(金)、タイ・コンケン大学キティチャイ学長、ナワラット副学長ほか総勢7名が田中理事長を表敬訪問されました。コンケン大学からは、これまで多くの大学教員を財団が奨学プログラムで支援したことに対し感謝の意が伝えられ、今後さらに、大学として発展して行くためにも、継続的なサポートをお願いしたいとの要望がありました。

コンケン大学は財団がパートナーとしてお付き合いしている大学の中でも、特に、精力的に財団の奨学プログラムに優秀な人材を送り込んできております。財団はこれまで31年の間に日本の大学院での博士課程留学を支援する日立スカラーシップのもと15名の教員を招へいしてきました。キティチャイ学長自身も新潟大学に留学した経験があり、日本で学び、日本で生活した経験は大変貴重であったと話されていました。

現在、滞日中の日立スカラーシップ奨学生は19名ですが、

そのうちコンケン大学教員は、早稲田大学理工学術院経営システム工学と東京大学大学院電気工学の博士課程で学んでいる2名です。学位を授与された後、母校に帰り、後進の指導にあたるとともに、研究においてもリーダーシップを発揮して、日本とアジアの架け橋となってくれることと思います。



## 環境サイエンスカフェ開催報告

### 第29回【COP21に向けての特別開催】

日本の温室効果ガス削減目標—家庭・業務部門における温暖化対策—(2015年9月16日開催)  
土居 健太郎さん(環境省地球環境局 地球温暖化対策課長(当時。現 環境省 福島環境再生事務所長))



2015年11月にフランスで開催されたCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)で、2020年以降の地球温暖化対策の新たな国際枠組み「パリ協定」が採択されました。これは1997年に採択された京都議定書以来、18年ぶりとなる枠組みで、世界の平均気温上昇を2度未満に抑える長期目標に向かって、全ての国が温室効果ガスの削減などに取り組むこととなります。今回のサイエンスカフェでは、このCOP21に挑む日本の姿勢をお話しいただきました。会議での主要論点、各国の草案比較などの総括的な解説のほか、日本の削減目標の仕組みや達成に必要な具体的な取り組みなどをわかりやすく説明いただきました。会場からも貴重なコメントや質問が多数寄せられ、活発な質疑が交わされました。



### 第30回・第31回【シリーズ：気候変動の影響】

サンゴから見た世界—地球温暖化と海洋酸性化—(2015年10月21日開催)

山野 博哉さん(国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長)

海のデッドゾーン-貧酸素水塊—温暖化の影響と予測の不確実性—(2016年1月27日開催)

重光 雅仁さん(海洋研究開発機構(JAMSTEC) 技術研究員)

気候変動の影響シリーズの3回目と4回目は、温暖化による海への影響についてお話しいただきました。



公開シンポジウム「ネット社会と少年非行」

日時：2015年11月28日(土) 13時~17時  
 場所：東お茶の水ビル  
 参加者：250名



基調講演

どうやって子どもを大人にするか

ダニエル・カールさんが初めて日本に留学した経験を交えながら、日米の子育ての違いを話されました。それによると、アメリカの高校では、実社会で直面するさまざまな問題、もめ事に巻き込まれないように事前に予防や解決の方法を教え、一人前の社会人として扱う点が日本と大きく違うのではないかと話されました。



ダニエル・カール氏

〈内容抜粋〉

アメリカの高校生は、とても大人ぶっていました。日本の留学先の高校の校則は厳しすぎて大人になることができなと感じました。

アルバイト禁止・運転免許禁止(カリフォルニア州は16歳から運転免許取得可能)・男女交際禁止。

日本の高校は勉強するところなのでその邪魔になることやお金がかかることは禁止で、アメリカは高校までが義務教育なので、学校は、社会人として1人でやっていける力を身につけさせることに力をいれます。アメリカの一部の高校では、必修科目として「ライフ・アンド・メディシン」という授業があり、男女関係について、結婚について、離婚した場合の法律上の財産の分けかた、クレジットカードの使い方、家計簿の書き方、ローンの組み方などを教えてくれます。さらに、地域によっては、赤ちゃんの育て方の授業もあり、時間が来るとタイマーで泣き出す赤ちゃん人形を1人1人に貸し出し、紙おむつ、ベビーカー、哺乳瓶も支給され1泊2日で赤ちゃんの親代わりとして世話をし、学校にベビーカーを押して登校。アメリカでは、高校生が出産のため学校をやめる率が高く社会問題になっているので、この体験で、子どもが子どもを産んではいけない。赤ちゃんはかわいいからと軽い思いでは育てられないことが理解されるようになりました。

続きは財団ウェブサイトをご覧ください。

シンポジウム

犯罪学からみたネット社会

守山 正氏(拓殖大学 政経学部教授)  
 ネット社会の広がりに伴い、犯罪形態にも変化がみられ伝統的な加害者・被害者が直接接触して犯罪が行われる対面型から、被害者が事前に加害者の人物情報を十分に知ることなく、被害に巻き込まれる非対面型に変化した。とくに少年や高齢者といった社会的弱者が標的になっている。このように、ネット社会では、地理的条件などの影響を受けずに、加害者にも被害者にもなる状況が飛躍的に拡大しており、その予防や施策について犯罪学的な視点からお話しいただきました。

ネット社会と子どもの犯罪被害・加害の実態

寒川 由美子氏(NHK解説委員)  
 スマホなどの普及で子どもを取り巻くネット環境が様変わりする中、ネットを通じて子どもが被害にあう事件が増えている。例えばID交換掲示板と呼ばれる交流サイトでは、見知らぬ大人と知り合い、児童ポルノ、児童買春、中には殺人の被害者になった子どももいる。子どもたちは「無料だから」「友達の勧め」など軽い気持ちでアクセスしているが、加害者は年齢や性別まで偽って別人になりすまし、子どもに近づいている。一方、ネット社会では犯罪の加害者となる子どもにも変化が起きている。振り込め詐欺の現金受け取り役などで検挙される少年が急増。素性も分からない相手にネットで勧誘されるケースも多く、大人には見えないつながりで犯罪に引き込まれている。子どもの犯罪被害・加害の実態を見ながら、家庭や学校などで、子どもを守るにはどうすればいいか等をお話しいただきました。

ネット社会と非行少年の特性

青木 治氏(多摩少年院 首席専門官)  
 多摩少年院は圧倒的に「窃盗」が多数を占めていたが、近年、「詐欺」による入院が増加したその背景には、非行を起こす少年たちのネットへの関わり方に原因がある。少年院の在院者にアンケートを実施したデータをもとに、在院者たちが社会でどのようなネット環境下にあったのか、一般の子どもたちと比較し、ネット依存の傾向や家庭内ルールの設定率、ネット上のトラブル経験率等の調査結果についてお話しいただきました。

ネットに生きる子どもの危うさ

遠藤 美季氏(エンジェルズアイズ 代表)  
 ネットに依存しなくてはならないような環境になりつつある中、子どもたちは必ずしも楽しいからネットを利用しているとは限りません。知識なくモバイル機器を手にするだけで、気付かないうちに大人の手の届かない世界に沈んでいく子もいます。またネット内で知らぬうちに加害者になる子どもがいる一方で犯罪と知りつつもハマっていく子もいる。ネットに依存して日常生活を送る子どもたちの現状と、その危うさ、今後おこりうる少年犯罪についてお話しいただきました。



左から、守山氏、寒川氏、青木氏、遠藤氏

シンポジウムの内容も、財団ウェブサイトをご覧ください。

講演会「火山国日本 知って備えて楽しむ火山」

日時：2015年12月5日(土) 13時半~15時  
 場所：国立科学博物館 講堂  
 参加者：100名

名古屋大学大学院環境学研究科付属 地震火山研究センターの山岡耕春教授を講師にむかえ、近年活発化が目されている火山をテーマに、主に身近な日本の火山について講演いただきました。山岡先生は地震予知連絡会副会長、火山噴火予知連絡会幹事でもあり、昨年9月の御嶽山噴火後、火山噴火予知連絡会御嶽山総合観測班長も務められました。またNHKのクローズアップ現代などでテレビ出演もされています。

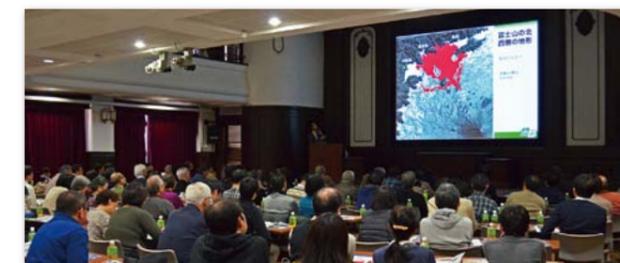


山岡 耕春氏

講演では、冒頭に火山の魅力についてのお話があり、続いて噴火のメカニズムの説明、次に噴火予知の5要素が順に説明されました。山岡先生ご自身の、火山への強い興味と火山研究への熱意が聴衆にも伝わる講演でした。

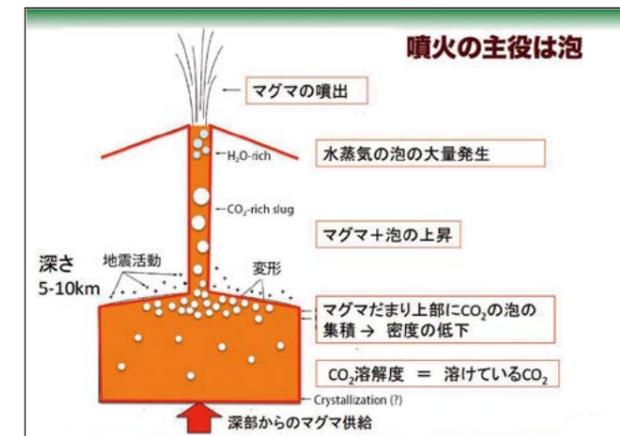
●火山の魅力

噴火が起きてしまうと危険ですが、火山は観光地となるところがほとんどで、風光明媚、登山、リゾートや温泉などのメリットが多くあります。実際に、日本の国立公園の半分(17/34)に火山があります。山歩きに出かけられる時など、マグマや噴火の形態について知っていると、地形や地層、生物群などのワイルドな自然を楽しむことができ、面白い発見がたくさん見つかると思います。



●噴火のメカニズム

地球の内部で生成されたマグマはどのようにして地上に噴出するのでしょうか。その鍵となるのは、大昔に地球が創られ



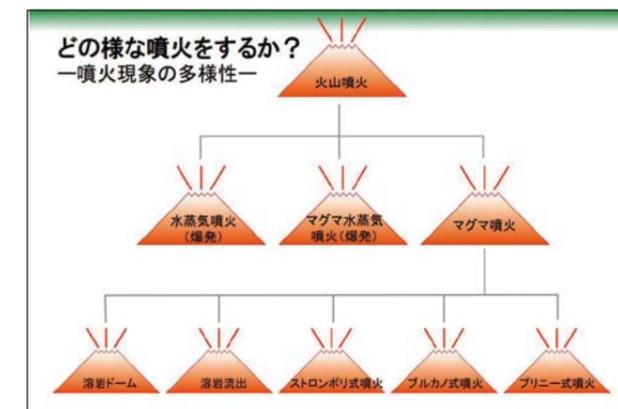
たとき取り込まれた炭素から生じる二酸化炭素です。コーラの瓶のように、マグマの中で圧力によって溶けていたガスが、地表近くで圧力が下り泡となり爆発を起こします。

●火山噴火予知の5要素

- 1 いつ(噴火時期)
- 2 どこで(噴火場所)
- 3 どのような(噴火様式)
- 4 どのくらいの(噴火規模)
- 5 いつまで(噴火推移)

噴火の例として、富士山と西之島の溶岩流、伊豆大島のストロンボリ式噴火、桜島のブルカノ式噴火、磐梯山の岩屑なだれ、そして御嶽山の噴火などがあります(動画を見ると理解が深まります)。

噴火予知のどの要素も、信頼できる予測は残念ながらまだ困難です。



●火山を安全に楽しむために

山に出かけるときは、その山が火山かどうかをまず調べ、火山なら現在の活動と過去の歴史を気象庁ホームページで事前に調べて、火山警戒レベルやハザードマップを知っておくことで、より安全により深く火山を楽しめます。

気象庁:火山を知る「活火山総覧」



気象庁:火山の状況に関する解説情報



講演で使用された動画

- 西之島の噴火1
- 西之島の噴火2
- ストロンボリ式噴火(ストロンボリ火山 イタリア)
- ストロンボリ式噴火(アイスランドの火山)
- プリニー式噴火(チリ)
- 火砕流(雲仙)
- 桜島の噴火